

第120回 静岡大成中学校 静岡大成高等学校 開校記念式典 学校長挨拶

本日、静岡大成中学校・静岡大成高等学校、第120回開校記念式典を挙げていただけますことを大変嬉しく思います。ご来賓の皆様には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

今から120年前、1903年、明治36年に、本校は「私立静岡精華女学校」として創立されました。この年、ライト兄弟が人類初の有人動力飛行に成功しています。翌年には日露戦争が始まり、日本はまさに軍事大国に突き進んでいこうとしている時でした。日清戦争で獲得した賠償金によって、義務教育は一層促進されていきました。しかし、今の小学校にあたる「尋常小学校」を終えると、女子は家事従事、または働きに出るものがほとんどでした。今の中学校にあたる「高等小学校」に進学するのは極めて稀で、上級学校に進学するのはほぼ男子でした。

本校創立者杉原正市先生も、長年にわたり男子教育の先頭に立って、男子の教育のみに携わっていましたが、次の時代を担う女子の教育がこれからは重要であると考え、55歳の時、一大決心を固め、「私立静岡精華女学校」を創立したのです。

杉原先生は、当時としては極めて斬新な女子への教育を次々と実践しました。たとえば、6泊7日の関西への修学旅行です。当時この旅行を突飛なこととして危ぶむ声も多かったようですが、参加した生徒は、この旅行の楽しかったことを終生語り合ったということです。

ほかにも、スポーツと弁論を奨励し、運動会と呼ばれた遠足や、当時の女学校で最初の富士登山を実施しました。次々と運動部を創り、テニス、陸上、バスケットボールは全国制覇を成し遂げました。弁論大会は現在の意見発表会につながっています。英語の授業では、外国人教師を招き、英会話を取り入れました。

生徒には、学問だけでなく、一人の人間として、心身ともに立派に成長してほしいというのが、杉原先生の理想とする考え方でした。

さて、今この学校の歴史を創っているのは私たち、皆さんと教職員、そして学校に関係する多くの方々です。創立者の思いを引き継いだ新しい歴史を創っていきたくは私と思っています。そのためには、生徒の皆さんが、学校生活でのさまざまな経験を通して、一人の人間として、心身ともに立派に成長していくこと、そして、教職員はそれを支援していくことが重要だと考えます。

そこで、より良い自分になるための3つのコンピテンシーを掲げました。自律、自分で考え決断し行動する。対話、対話を通じて相手を理解する。行動、自分たちでより良い学校を創っていく。これを、生徒一人ひとりが意識して学校生活を送り、教職員も同じ考えのもとに、生徒と共に学校を創っていきたくと思います。静岡大成中学校、静岡大成高等学校の新しい歴史を創っていきましょう。

令和5年5月26日
静岡大成中学校・高等学校
校長 山田 隆司